

手作り絵本のデジタル化

青 木 優

- I. はじめに
- II. デジタル化の方法
- III. 絵本のデジタル化の例
- IV. まとめ

I. はじめに

近年、情報技術の進歩やインターネットの普及に伴い急速に社会の情報化が進む一方で、若者の凶悪犯罪が目立ってきている。これには、残虐なテレビゲームが普及した事や有害情報をインターネットで簡単に入手できるようになった事など様々な理由が挙げられているが、どれが原因かは特定できていないし、またそれらが複合的に絡まって若者を凶悪犯罪に走らせているのかもしれない。ただ、このような若者に共通して言えるのは、感情や感性が無機質で、何らかの心の問題を抱えていることである。しかし、心の問題を抱えているのは、若者だけではない。中高年でも、ビジネス競争の激化による仕事量の増加やリストラなどによってストレスが溜まり、心の問題を抱えるようになる者もいるし、また社会的な倫理の欠如から様々な事件や事故が多発している。このような問題を防ぐ為には、どうしたらよいのだろうか。今さら昔の社会に戻ることはできないし、情報技術の進歩を止めたり、ビジネス競争を無くすわけにもいかない。なぜならば、昔から技術の進歩には問題が付きもので、人間は失敗を繰り返しながら進歩してきたし、それによって人類が受ける恩恵も多く、またビジネス競争によって、より良い製品を安く手に入れることができるようになるからである。ただ、このような急激に変化する時代には、時々立ち止まって、

もう一度子供の頃の想像力や優しい心を思い出し、現在の自分を見つめ直してみる事が大切である。

このような時代背景の下、昔ながらの絵本が話題になっている。一般的に、絵本は「子供に読み聞かせるもの」、または「子供が自ら読むもの」というイメージが強い。実際に子供の知育の為の絵本が数多く出版されているわけであるが、1999年に柳田邦男が次男の死をきっかけに絵本の素晴らしさを再発見し、「大人に絵本をすすめる」運動¹⁾を提唱してから、新聞紙上²⁾でも大人に絵本をすすめる運動が取り上げられ、またそれに関する書籍³⁾⁴⁾も出版されている。柳田は、それらの中で、「絵本は人生で三度読むべきもの」⁵⁾と主

¹⁾ 柳田邦男「特別寄稿 いま、大人が読むべき絵本 一珠玉の絵本は中高年の人生を豊かにしてくれる」、『文藝春秋』、77巻10号、1999年、316～329ページ。

²⁾ 柳田邦男、内山理名「心の砂漠にうるおいを～いま、おとなにすすめる絵本～」、『読売新聞』、2003年6月10日、28ページ。柳田邦男、中井貴恵「言葉と心の危機の時代に～いま、おとなにすすめる絵本～」、『読売新聞』、2004年6月9日、16ページ。柳田邦男、谷川俊太郎「心の豊かさを耕すために～いま、おとなにすすめる絵本～」、『読売新聞』、2005年6月8日、8ページ。

³⁾ 河合隼雄、松井直、柳田邦男『絵本の力』、岩波書店、2001年。

⁴⁾ 文献2)をまとめて出版したものとして、次の文献がある。「いま、大人にすすめる絵本」プロジェクトチーム編『ティータイムに絵本を』、メディアパル、2006年。

⁵⁾ 「いま、大人にすすめる絵本」プロジェクトチーム編『ティータイムに絵本を』、6ページ。

張している。その三度とは、「幼い時」、「親になった時」、「人生の後半に差し加かった時」であり、歳をとっても読む度に絵本の中には再発見する事があり、大人こそ絵本を読むべきであると薦めている。また、「絵本は深い、人生の大切なことはすべてそこにある。独りゆっくりと項をめくるなら、心の中に潤いとゆとりを取り戻すにちがいない。」⁶⁾と、絵本によって乾涸びた心に潤いを取り戻せるとも唱えている。また最近では、大人達が集まって、自分達の為に絵本や童話の読み聞かせをする活動がみられるようになってきている⁷⁾。

それでは、絵本の素晴らしさとは、具体的にどのようなものであろうか。これを説明するには、柳田が紹介している「子どもと死と絵本」⁸⁾の話为例にするのが適当である。

聖路加病院に勤める医師・細谷亮太が、急性脳症によって脳死状態に陥った2歳の男子の姉(8歳)と兄(5歳)に、やがて迎える弟の死をわかってもらおうと、スーザン・バーレイ作の絵本『わすれられないおくりもの』⁹⁾を、脳死状態の弟のベッドサイドに二人を座らせて、読み聞かせてあげる話である。それまで、悲しいけど涙が出ないと言っていた5歳の兄も、この絵本の物語を聞きながら目に涙をいっぱい浮かべて、しっかりと絵本を見つめていたそうである。そして細谷は二人に、絵本の中に登場した主人公のアナグマと同じように人間もいつかは死を迎えるときが来るが、心はいつまでも生き続けることを教えるのである。おそらく、この二人の子は、弟の死を頭で理解したというよりは、心でしっかりと感じる事ができたのであろう。だからこそ涙が出たのである。このように、

絵本の素晴らしさは、頭で理解させるというよりは、むしろ心で感じさせることができることにある。情報技術の進歩によって情報の洪水が押し寄せ、活字や映像が情報を伝えるだけの単なる媒体と化してしまっている昨今、洗練された短い話で、年齢に関係なく、大切なメッセージをじっくりと心に伝えることができる場所に絵本の素晴らしさがある。もしかすると、このように心に染み入る情報こそが本当に質の高い情報と言えるのかもしれない。

近年、絵本の存在が見直され、様々な絵本が出版される中で、手作り絵本も人気が出てきている。ただし、こちらの方は、絵本を読むと言うよりは、むしろ絵本の制作に人気があると言う方が適当かもしれない。というのは、「世界でたった一つの絵本を作りましょう」というキャッチフレーズの下に、親が、我が子の為に制作する手作り絵本講習会などが全国各地で開催されているからである。しかし、これらの手作り絵本の中には出版に値するほど素晴らしいものがあるにも関わらず、文字通り「世界でたった一つの絵本」のまま、一部のコンクール¹⁰⁾に入賞した作品を除いては、出版まで漕ぎ着けることは殆ど無いのが現状である。これは、近年の少子化の影響もあってか、出版社側も大量在庫というリスクを抱えたくない為、確実に人気の出そうな絵本しか出版しないという商業出版事情によるものである。そのため、絵本の分野は、新人作家が輩出しにくい分野と言われて

いる。インターネットの普及は、Webによって誰もがマスメディアの発信者になることを可能にした。勿論、これには功罪の両論があるが、筆者は、このインターネットを利用して、世界でたった一つの手作り絵本をデジタル化し

⁶⁾ 「いま、大人にすすめる絵本」プロジェクトチーム編 『ティータイムに絵本を』、14ページ。

⁷⁾ 「いま、大人にすすめる絵本」プロジェクトチーム編 『ティータイムに絵本を』、26ページ。

⁸⁾ 河合隼雄、松井直、柳田邦男『絵本の力』、岩波書店、2001年、88～96ページ。この話の出所は次の文献である。細谷亮太『いのちを見つめて』、岩波書店、1998年。

⁹⁾ 作：スーザン・バーレイ、絵：小川仁央、訳：スーザン・バーレイ 『わすれられないおくりもの』、評論社、1986年。

¹⁰⁾ 例えば、「ニッサン童話と絵本のグランプリ」がある。これは、日産自動車株式会社と(財)大阪国際児童文学館と協力して、1984年に始まったアマチュアを対象にした創作童話と絵本のコンテストであり、受賞作品の出版活動と全国の約3,600にも上る図書館や日産自動車各事業所周辺の幼稚園や保育園(約620園)に延べ12万冊以上の絵本を寄贈している。
<http://www.nissan-global.com/JP/CITIZENSHIP/FAIRYTALE/index.html>

て、Web上に公開し、できるだけ多くの方に読んでもらえるようにすることを提案する。また、無料公開することによって、高価である絵本を誰もが無料で閲覧し、楽しむことが可能になる。そこで本研究では、数々の手作り絵本コンクールで入賞経験のある手作り絵本作家¹¹⁾の方において、自作の手作り絵本を提供して頂き、Web上で公開を試みた。本研究で公開した絵本は、『なきむしわにくん』¹²⁾、『ぼんたのはらつづみ』¹³⁾、『おじいさんのかさ』¹⁴⁾、『なのはなじぞう』¹⁵⁾の4点である。

¹¹⁾ 吉井隆子。童話作家、手作り絵本作家。ペンネーム「よしい たかこ」で作家活動を続け、数々の手作り絵本コンクールで入賞。1988年第11回「日本の絵本賞」において、『田舎から来たおばあさん』で文部大臣奨励賞を受賞。主な著書に、「よしい たかこ『がんばれ、駐在っ子』、新風舎、2006年」がある。主に絵本の文章を担当し、絵は渡辺道子(ペンネーム「わたなべ みちこ」)が担当。

¹²⁾ 作：よしいたかこ、絵：わたなべみちこ 『なきむしわにくん』、1994年。

¹³⁾ 作：よしいたかこ、絵：わたなべみちこ 『ぼんたのはらつづみ』、1990年。

¹⁴⁾ 作：よしいたかこ、絵：わたなべみちこ 『おじいさんのかさ』、1996年。

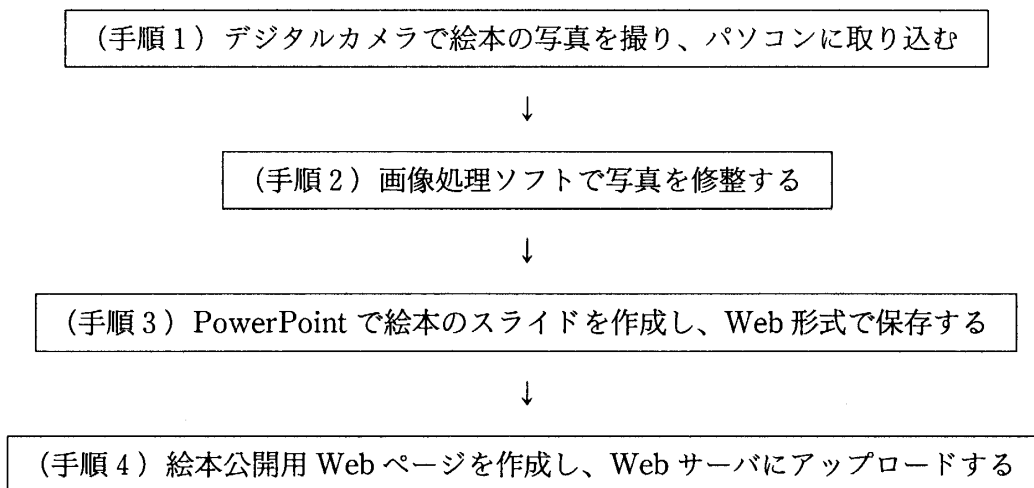
¹⁵⁾ 作、絵：よしいたかこ 『なのはなじぞう』、1989年。

最初にII章では、デジタル化の方法について説明し、次にIII章では、実際に作成した手作り絵本の公開用Webページと、そのWeb上で閲覧できる『おじいさんのかさ』を例として示す。そして最後に、IV章でまとめる。

II. デジタル化の方法

まず初めに、手作り絵本のデジタル化の手順について説明する。第1図にある通り、最初にデジタルカメラで絵本の写真を撮り、その画像をパソコンに取り込む。次に画像処理ソフトを使って画像を修正し、その画像をもとにMicrosoft PowerPointを用いて絵本のWeb用スライドを作成する。最後に、手作り絵本公開用Webページを作成し、作成してある絵本のWeb用スライドを貼り付け、Webサーバにアップロードする。以下にそれぞれの手順について、実際の画像を用いて詳細に説明する。

第1図：手作り絵本のデジタル化の手順



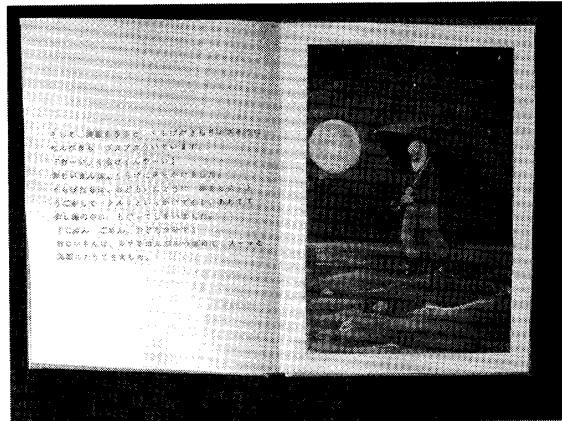
(手順1) デジタルカメラで絵本の写真を撮り、パソコンに取り込む

第2図のように絵本を開いてデジタルカメラ¹⁶⁾で撮影する。解像度は、文字がはっきり読

める解像度で撮影する。この時、三脚を用いてデジタルカメラを下向きに固定して撮影をおこなうと、手振れせずに、全てのページが同じ状態で撮影できる。

¹⁶⁾ 本研究では、CANON IXY DIGITAL 450 (最大解像度450万画素)を使用。

第2図：デジタルカメラで撮影した絵本の写真（ファイルサイズ：330KB）



出典： 作：よしいたかこ、絵：わたなべみちこ 『おじいさんのかさ』、1996年、11～12ページ。

(手順2) 画像処理ソフトで写真を修整する
画像処理ソフト¹⁷⁾を使って、写真の中で必要な範囲をトリミングし、そしてWeb上で見るのに最適なサイズに変更する。次に、パソコンの画面で閲覧するのにちょうど良い明るさに調整する。最後に、画像データをJPEG形式で、1/10程度に圧縮して保存する。画像データを圧縮するのは、次のような理由

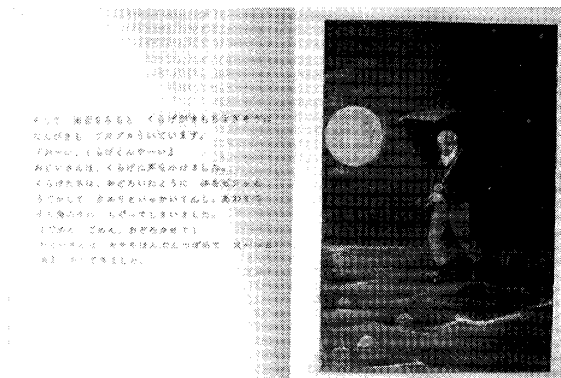
¹⁷⁾ Jasc Software「Paint Shop Pro 7」を使用。

がある。

- (1) Webサーバ上の保存容量を節約するため。
- (2) 閲覧の際の表示速度を早くするため。
- (3) 原画の著作権を守るため。

本研究では、これらの操作によって、見た目はそれほど変わっていなくても、画像のファイルサイズは10分の1以下に圧縮することができた。

第3図：画像処理ソフトで修正された画像（ファイルサイズ：24KB）



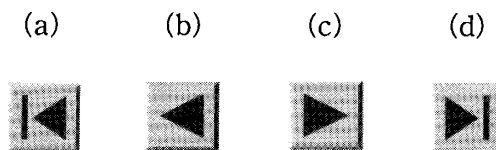
出典： 作：よしいたかこ、絵：わたなべみちこ 『おじいさんのかさ』、1996年、11～12ページ。

(手順3) PowerPointで絵本のスライドを作成し、Web形式で保存する

絵本のスライドを作成するには、PowerPointのスライド各1枚に、(手順2)で修正した絵本の写真1枚ずつを貼り付けて、絵本全体のスライドを作成する。各スライドに、第4図に示す「表紙に戻る」、「前のページに戻る」、「次のページに進む」、「裏表紙に進む」の機能を持つ動作設定ボタン4つを配置しておき、本物の絵本と同様に、ページをめくる感覚で、絵本が閲覧できるように配慮した。これは、絵本においては、ページをめくるという行為が、時間を進めたり、空間を変えるという重要な意味を持っている為、敢えて実際に絵本のページをめくるような感覚を取り入れることに拘ったものである。

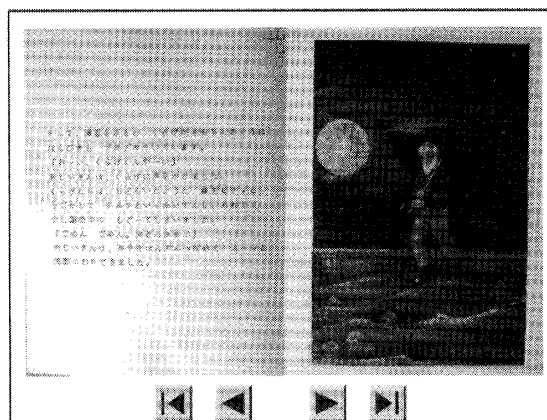
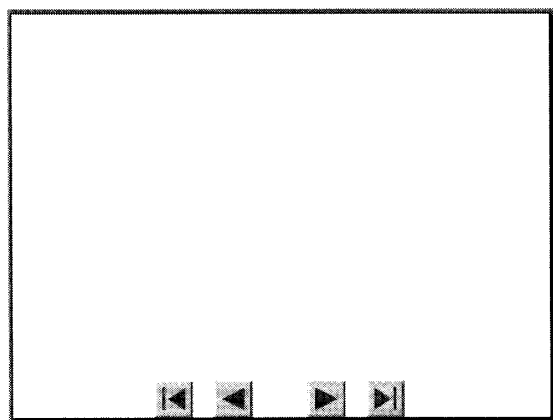
第4図：スライド上の4つの動作設定ボタン。

- (a) 表紙に戻る、(b) 前のページに戻る、
- (c) 次のページに進む、(d) 裏表紙に進む



スライド1枚毎にボタンを配置することも可能であるが、最初にスライドマスタを作成しておけば、新しいスライドを挿入する度に第4図の動作設定ボタンが自動的に配置されるので手間が省ける。そこで、第5図(左)のようなスライドマスタを作成しておき、写真画像を貼り付けるだけにしておく。また、絵本の写真を貼り付けたスライドの例を第5図(右)に示す。

第5図：スライドマスタ(左)、絵本の写真を貼り付けたスライド(右)



出典： 作：よしいたかこ、絵：わたなべみちこ

『おじいさんのかさ』、1996年、11～12ページ。

絵本全体のスライドが完成したら Web 形式で保存する。これには「単一ファイル Web ページ」で保存する方法と「Web ページ」(複数ファイル)で保存する方法の2つがあるが、本研究では、Web サーバにアップロードするファイル数を減らす目的で、前者の方法で保存した。ただし、「Web オプション」は、次のように設定した。

- (1) 「全般」タブをクリックし、「色」は「白地に黒いテキスト」に設定
- (2) スライド ナビゲーション コントロールを追加する」のチェックをはずす。

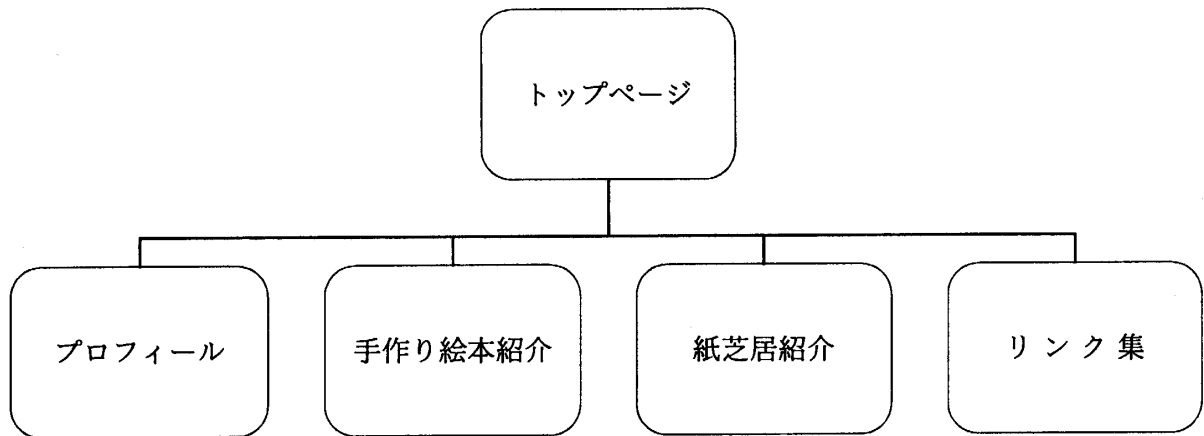
(手順4) 絵本公開用 Web ページを作成し、Web サーバにアップロードする
絵本のスライドを Web 形式で保存した

ら、次に絵本を公開する Web ページを作成¹⁸⁾する。本研究では、Web サイトの構成を第6図に示すように、「トップページ」以下に「プロフィール」、「手づくり絵本紹介」、「紙芝居紹介」、「リンク集」とした。実は、手作り絵本同様に手作り紙芝居も紹介しているが、本論文では手作り絵本の紹介だけにしておく。興味のある方は、Web 上¹⁹⁾でご覧頂きたい。また、各ページを開くと、絵本に合った優しく落ち着いた音楽が、自動的に流れるようにした。

¹⁸⁾ ホームページ作成ソフトウェアとして、IBM「ホームページ・ビルダー8」を使用。

¹⁹⁾ 「よしいたかこのホームページ」 <http://www.geocities.jp/yoshiee10/>

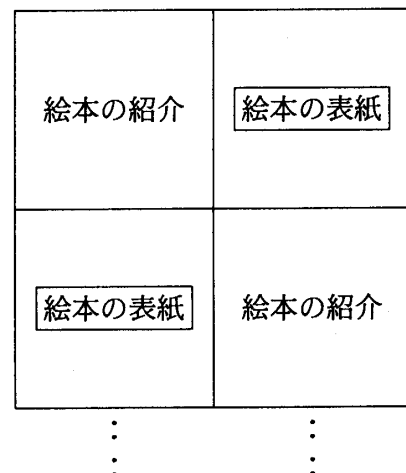
第6図：Web サイトの構成図



また、「手づくり絵本紹介」ページでは、第7図に示すように、レイアウトを工夫して、絵本の表紙と紹介が左右交互に入れ替わるように配置した。そして、表紙の画像をクリックすると、新しいウィンドウが開き、絵本のスライドショーが始まるようにした。

最後に、完成した手作り絵本公開用 Web ページを、手作り絵本作家の方が契約しているインターネット・サービス・プロバイダの Web サーバにアップロードした。

第7図：手作り絵本紹介ページの構成



III. 絵本のデジタル化の例

第8図に本研究で作成した手作り絵本公開 Web ページ「よしいたかこのホームページ」を示す。トップページには、アクセスカウンタを設け閲覧に訪問した方の人数を数えられるようにした。また、季節に合った絵本の一場面の絵を載せ、トップページを見るだけで、作者の絵本の世界に入り込めるようにした。

第9図にはデジタル化した手作り絵本の例として、『おじいさんのかさ』を示す。この物語のあらすじは、次の通りである。

(あらすじ)

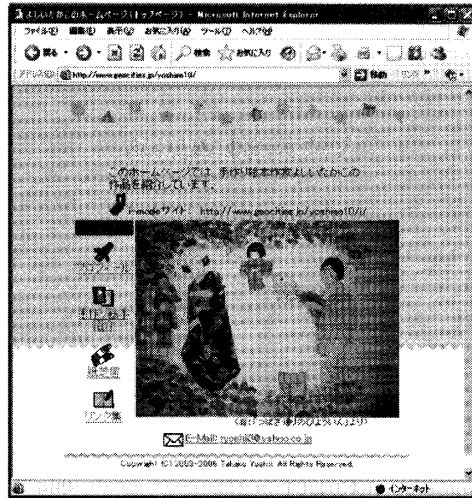
海の匂いのする町に傘屋のおじいさんが住んでいました。ある日、おじいさんが浜辺を散歩していると、1本の傘が波にうたれていました。傘を可哀想にと思ったおじいさんは、その傘を持ち帰り、心を込めて丁寧に修理をしてあげました。そして、修理が終わって傘を開いてみると、突然、おじいさんの体が宙に浮いたのです。驚いたことに、それは空を飛べる不思議な傘だったのです。そしておじいさんは、その傘で夜の海へと散歩に出掛け、クラゲや鯨と楽しいひと時を過ごします。

この絵本には、「全ての物には命があり、その命を大切にしたい」という作者のメッセージが込められている。絵本を通して、作者のメッセージを理解するというよりは、むしろそれを感じることができる。これが、幼い子供や想像力が涸れた大人にも絵本を通して疑似体験してもらうことにより、作者のメッセージを感じ取ってもらえる絵本の優れたところである。

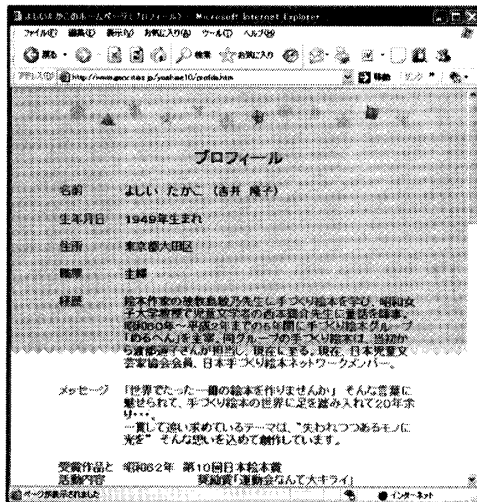
実際に Web ページ上で『おじいさんのかさ』の文章を読むには、第8図に示す「手作り絵本紹介」ページにある『おじいさんのかさ』の表紙の画像をクリックする。すると新しいウィンドウが開き、そこに『おじいさんのかさ』のスライドショーが開始される。スライドの下の動作設定ボタンをクリックして、次のページに進みながら絵本を読み進めていき、裏表紙まで行った状態で、更に次のページに進むと真っ黒なページが表示され、「スライドショーの最後です。クリックすると終了します。」と表示される。この状態で更にクリックすると、スライドショーの終了となる。そして、再び第8図「手作り絵本紹介」ページに戻ることができる。

第8図：手作り絵本公開用 Web ページ「よしいたかこのホームページ」

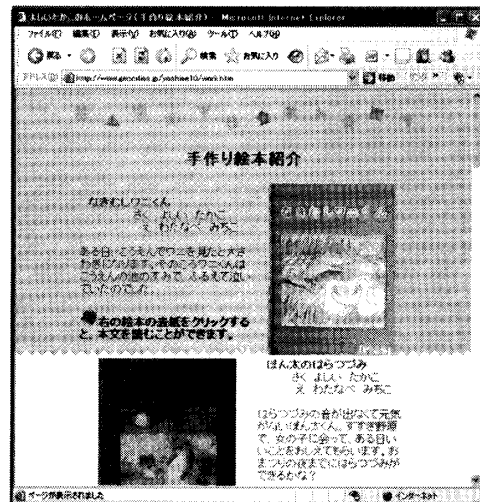
(a) トップページ



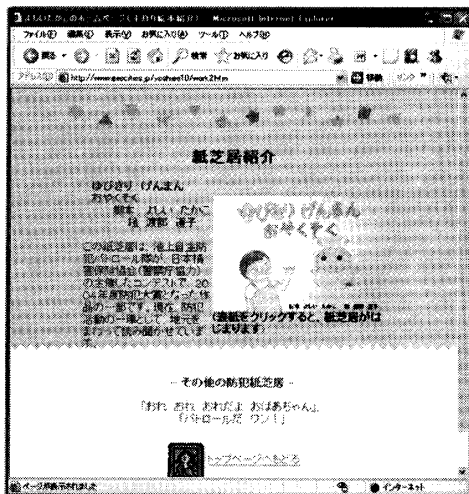
(b) プロフィール



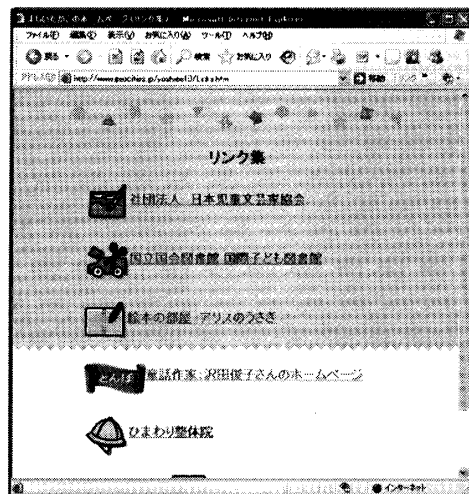
(c) 手作り絵本紹介



(d) 紙芝居紹介



(e) リンク集

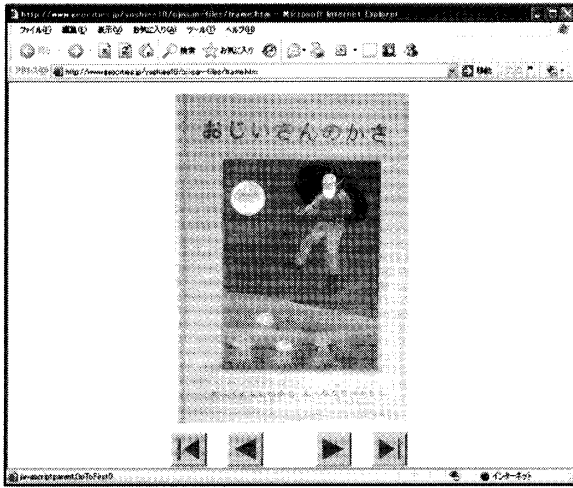


出典：「よしいたかこのホームページ」
(http://www.geocities.jp/yoshiee10/) (2006年3月31日現在)

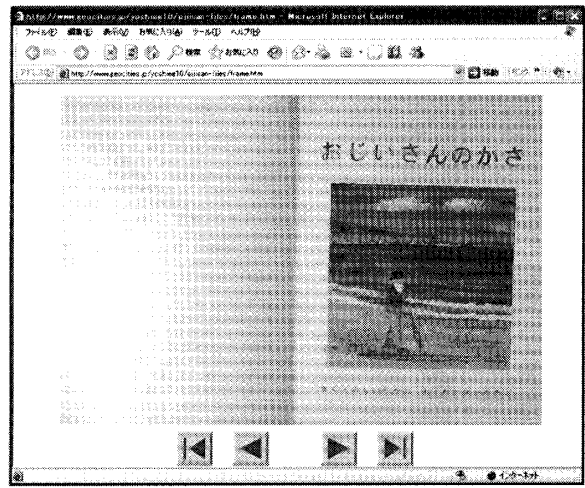
手作り絵本のデジタル化

第9図：デジタル化された手作り絵本『おじいさんのかさ』

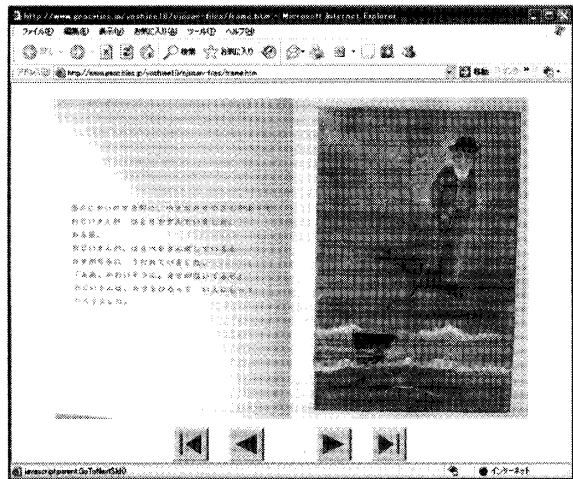
(a) 表紙



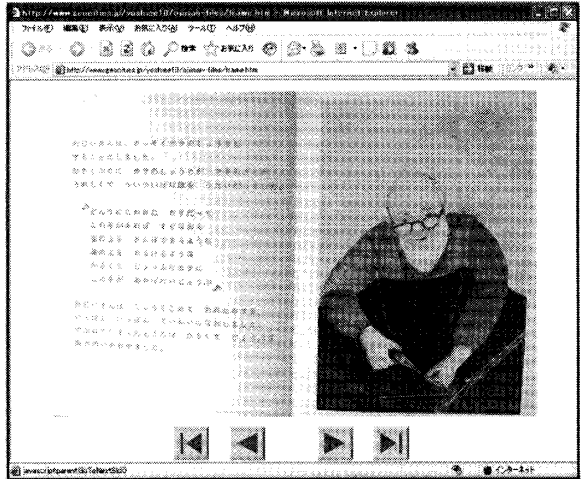
(b) 扉



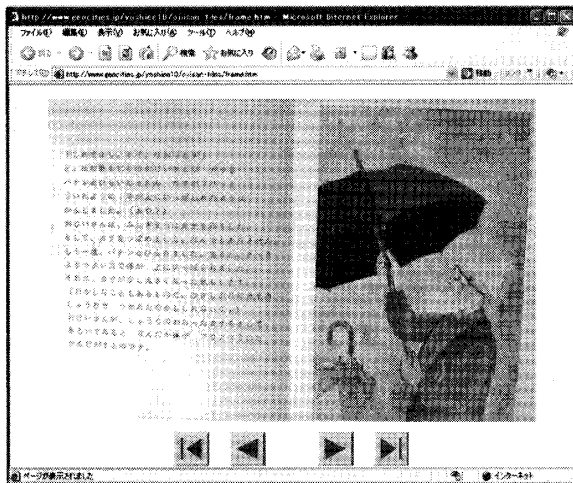
(c) 1, 2ページ



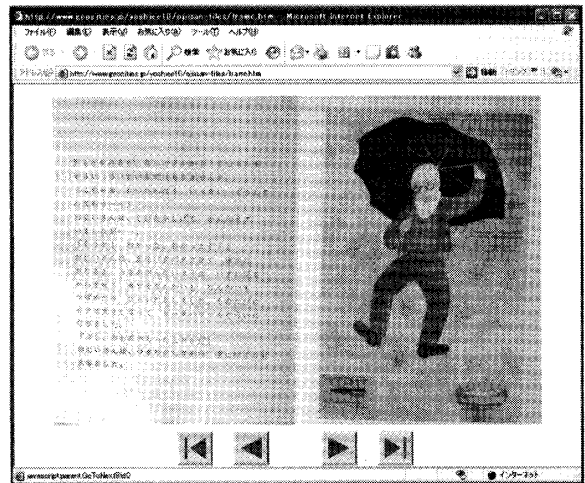
(d) 3, 4ページ



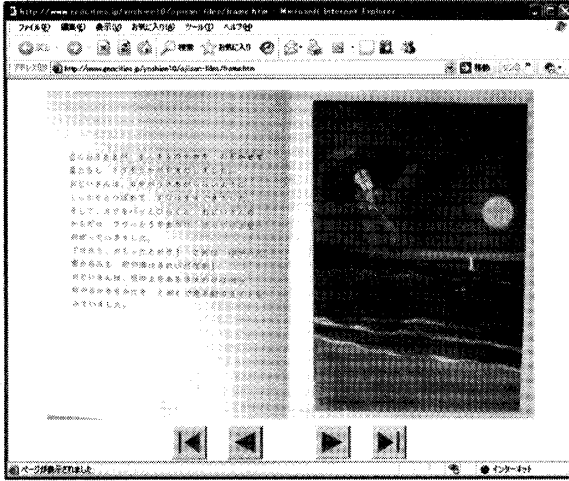
(e) 5, 6ページ



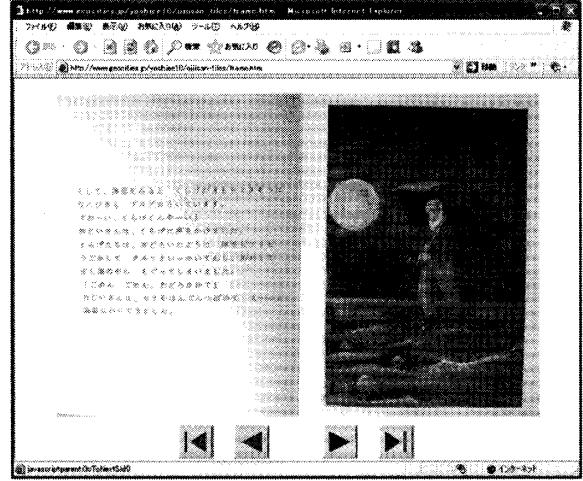
(f) 7, 8ページ



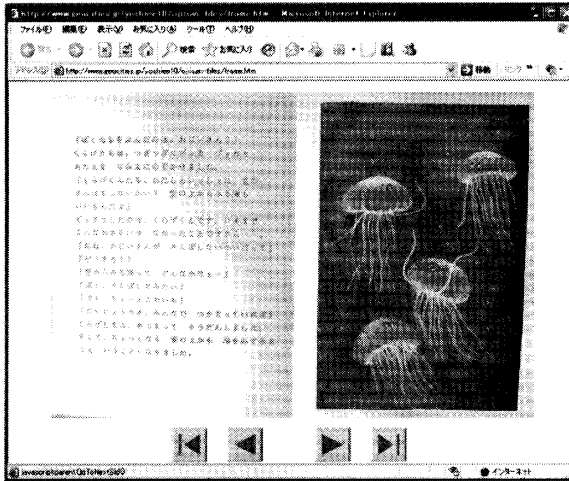
(g) 9, 10ページ



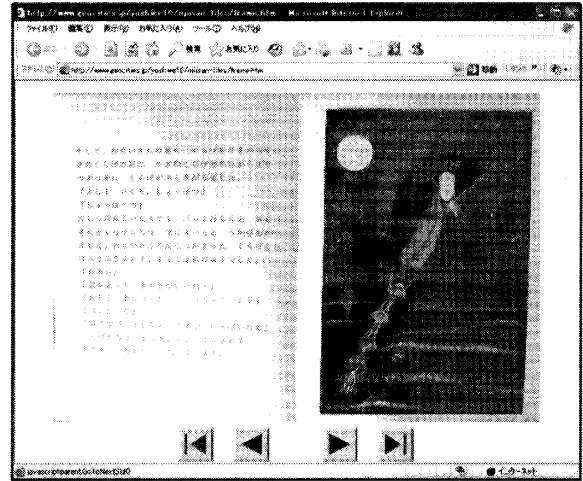
(h) 11, 12ページ



(i) 13, 14ページ



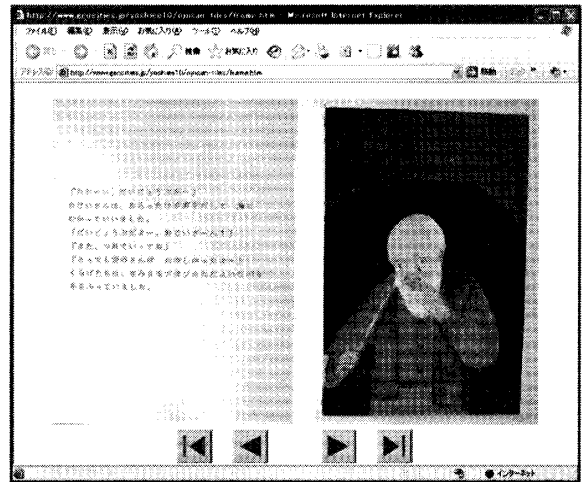
(j) 15, 16ページ



(k) 17, 18ページ



(l) 19, 20ページ

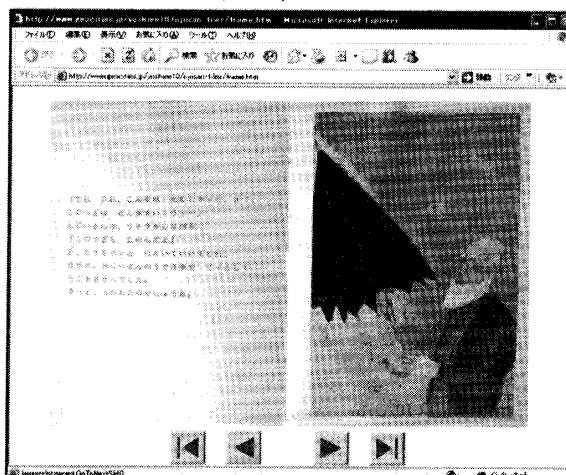


手作り絵本のデジタル化

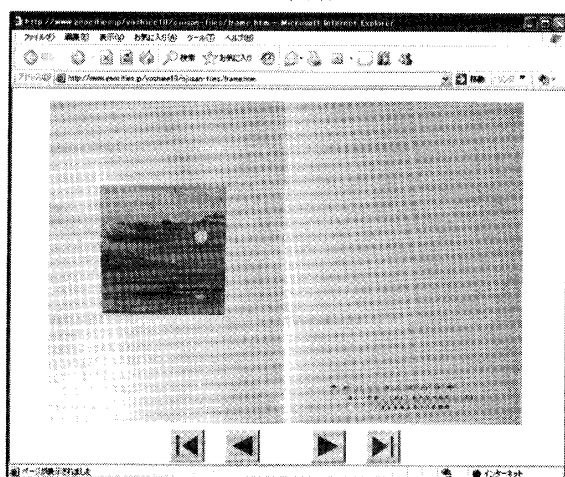
(m) 21, 22ページ



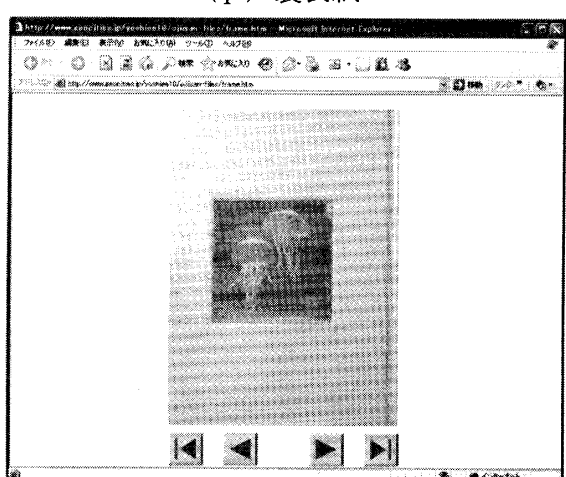
(n) 23, 24ページ



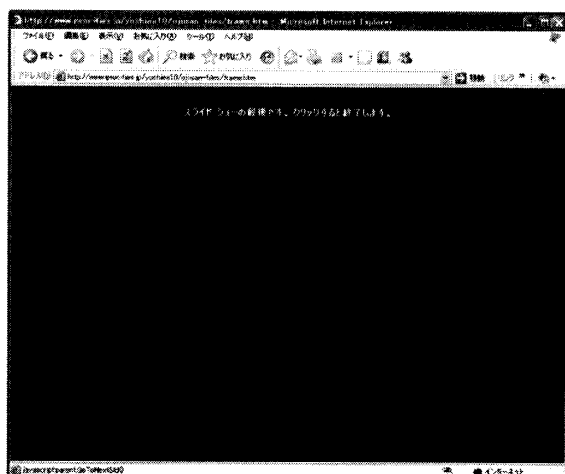
(o) 裏扉



(p) 裏表紙



(q) スライドショーの最後 (左) とメッセージの拡大図 (右)



スライドショーの最後です。クリックすると終了します。

出典：「よしいたかこのホームページ」
(<http://www.geocities.jp/yoshiee10/>) (2006年3月31日現在)

IV. まとめ

経済や技術の発展ばかりが注目される一方で、倫理の欠如や凶悪犯罪が問題となる昨今、絵本の魅力が再発見され、大人にも絵本が薦められるようになってきている。このような時代背景の下、手作り絵本作家の方に絵本を提供していただき、今まで殆ど出版される機会の無かった手作り絵本をデジタル化することによって、Web上で一般公開することを試みた。近年、ブログのように自分の日記を公開する人々が増加しているが、インターネットは、日記に限らず、手作り絵本のような自らの作品を公開する場でもある。このインターネットを上手に活用すれば、今までに出版の機会が無かった有能な絵本作家輩出の手助けも可能である。今回の研究では、デジタル化した絵本は4冊だけであるが、将来このような活動が拡大して、多くの絵本作家に協力して頂き、小説における「青空文庫」²⁰⁾のような、絵本のデジタル・アーカイブ²¹⁾が構築されることを願っている。

最後に、本研究をおこなうにあたり、絵本作家の吉井隆子氏と渡辺道子氏には、手作り絵本を提供して頂いた。この場をお借りして御礼を申し上げたい。

²⁰⁾ <http://www.aozora.gr.jp/> 著作権の切れた小説等や「自由に読んでもらってかまわない」とされた書籍等をボランティアの方々がテキスト入力することによってデジタル化し、無料で利用できるようにしたインターネット電子図書館。青空文庫に関しては、次のような書籍が出版されている。青空文庫『青空文庫へようこそ インターネット公共図書館の試み』、大日本印刷株式会社 I C C 本部、1999年。津野海太郎、二木麻里『徹底活用「オンライン読書」の挑戦』、晶文社、2000年。野口英司『インターネット図書館青空文庫』、はる書房、2005年。

²¹⁾ 世界語になりつつある和製の造語で、インターネット上で公開されているデジタル・コンテンツの保管庫のこと。